

令和5年度第4回塩竈市子ども・子育て会議 議事概要 報告書

1. 会議名	令和5年度第4回塩竈市子ども・子育て会議
2. 日 時	令和6年 3月15日（金） 18:30～20:00
3. 場 所	市民交流センター会議室（壱番館庁舎5階）
4. 出席者	<塩竈市子ども・子育て会議委員> 12名 <塩竈市> 7名 福祉子ども未来部長、子ども未来課長、課長補佐兼子ども企画係長、 子ども企画係主査、保育課長、課長補佐兼保育係長 教育部学校教育課副参事兼課長補佐兼指導主事 <委託事業者> 1名

<議 事 概 要>

1. 開 会 司会（課長補佐兼子ども企画係長）
2. 挨 拶 塩竈市子ども・子育て会議会長より
3. 議 事

（1）報告事項

- ①子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査の実施結果について
 - ・資料1を使用し、子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査の実施結果を説明した。
- ②子育て支援事業の実施状況等について
 - ・資料2を使用し、子育て支援事業の実施状況等について説明した。
- ③保育事業の実施状況等について
 - ・資料3を使用し、保育事業の実施状況等について説明した。

（2）協議事項

- ①特定教育・保育施設等の利用定員について（やまつき・NOVA・東部）
 - ・資料4を使用し、特定教育・保育施設等の利用定員について説明した。

4. 事務連絡等

- ①しおがま子育てアプリ「にこるん」について
 - ・別紙を使用し、しおがま子育てアプリ「にこるん」について説明した。

5. 閉 会

<議事内容>

(1) 報告事項

～～②から③の報告事項について、事務局より説明～～

【議 長】 ありがとうございます。ご報告いただきました②と③について、質問等がございましたら、お願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、私から一言だけ、放課後児童クラブと保育所等について、世の中では子どもの数が減っていると言われている中で、ニーズが下がる気配がない。このことについて、この後の調査報告から見えてくることがあればよいと思いますが、このニーズに応えていくことが塩竈市が子育てしやすいまちになっていくことになると思います。子どもの数が減り、もっと利用者が減ることになれば、サービスが信頼されるに至っていないのかもしれませんが、そういったことはなく、子どもの数が減っていてもニーズがあるということです。これに応えていくというのがチャンスであり、若い世代に塩竈市に住んでもらうことを切り開いていくことになると思います。どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。

他になれば、①のニーズ調査の結果の報告に移らせていただければと思いますがよろしいでしょうか。それではお願いいたします。

～～①の報告事項について、事務局より説明～～

【議 長】 事務局から説明があった件について、ご意見やご質問がありましたら、お願いいたします。いかがでしょうか。今日資料を提示し、矢継ぎ早に説明をしましたので、読み込むのに時間がかかるかと思いますので、私がざっくりばらんに気が付いたことについて、感想を含めてお話させていただければと思いますので、その間に考えていただければと思います。

まずは1ページの有効回収率について、前回と比べると回収率は上がったということですが、些末ですが、計算をしてみました。ウェブ調査が入ったことによって上がったとも限らないかと思います。このことに対して、施設や学校を通して、実施をさせていただき、背中を押していただいた結果がこの割合につながったと思います。回収率が上がったことについて、ご協力いただきました関係各位には感謝を申し上げたいと思います。決してウェブ調査だけで上がったということではないと思います。ただ、今回初めてのこのため、今後もウェブ調査を続けて、選択肢としていけば、ウェブ調査に移行していく率も上がってくると受け取りました。

2ページの家庭区分ですが、これを見たときに心配、懸念した部分としては、母子家庭・父子家庭・夫婦家庭とカテゴライズしていますが、要は母子家庭や父子家庭の方が回答できていないのではないかという気がしてなりません。恐らく塩竈市でざっくりと母子家庭・父子家庭の割合は抑えていると思います。今でなくてよいので、それと比べたときに割合が変わらないのか、それなりに回答がされているのかが分かれば、これはそれらを代表した意見となっていると言えると思います。要は時間的にも、精神的にも余裕がなく、ひとり親家庭の回収率が落ちているのではないかという点が心配としてあります。ざっくりとで構いませんので、ご確認をお願いいたします。

4ページの図表8子育ての気軽な相談先で、保育士や幼稚園教諭を気軽な相談先と位置付けている人が前回調査から変わっていますよね。結構伸びていると思います。先生方の普段の努力、保護者さんとの関係づくり、あるいは先生方のキャリアアップ

が関係しているのかもしれませんが。もっと相談できる親御さんが増えていくとよいなと思いました。

16 ページに行きまして、小学校 1 年生から小学校 3 年生の期間で希望する放課後の居場所として、放課後児童クラブがとても伸びていますね。30.6%から 44.6%と約 15 ポイント増えている。就学前児童は、放課後児童クラブは、そこまでニーズがないかもしれませんが、こんなにニーズが伸びている背景には、どのようなことがあるのか。この会議で増設していくことを報告していますが、そのことの兼ね合いがあると感じました。

関連して、18 ページの育児休業の取得状況をみると、前回調査時から変わっているところを見ると、収入源となり、経済的に苦しいとか、就学前児童の親が、育児休業を取得していない理由を見ると、母親では減っていると、父親では増えている。つまり、男性側の収入が減っていると。20 ページをご覧くださいと、母親・父親ともに、短時間勤務制度を利用できなかった理由として、短時間勤務にすると給与が減額されるため、両方とも伸びています。実は経済的な、コロナなど様々な理由があると思いますが、こういったことが市が公共サービスとして行っている放課後児童クラブの利用率のアップ、つまり、塾やスポ少はお金がかかりますから、そういったものではなく、両親の意思決定に何か影響を及ぼしているのかと、深読みをすると読み取れそうという感想でございます。

22 ページ、24 ページの共起ネットワークを出してもらっていますが、自由記述を書いてもらったときに、単語レベルでみんなが多く使った単語、一文の中で多く使われた単語を線でつなぐものになります。テキストマイニングの手法ですが、そうすると、なるほどと思いましたが、就学前児童だろうが、小学生だろうが、公園の設置の要望が多いということ。これに対して、課題のまとめで出てきていませんで、後で入れてもらえればと思います。自由記述でこれだけ出てきており、この会議の中でも度々話題になっておりますが、公園の整備が今後大事になっているのかと思います。

それから小学生では、放課後児童クラブや長期休みといった単語が出てきていますから、通常通りの利用だけではなく、長期休み中の利用も望まれており、公園が少ないことも関係するかもしれません。ということも含めて、まとめていただけるとよいのではないかと思います。

こういったことも含めて、見ていただければと思います。委員の皆様、ご質問や感想をお願いいたします。

【委員】 多く結果がありますので、たくさん言いたいことはありますが、一つ気になったのは、4 ページの気軽な相談先についてですが、先ほどの通り、保育士や幼稚園教諭がすごく多くなっていますが、その場合、家庭区分の中でひとり親家庭や共働きの場合、気軽な相談先がないとか回答した人が少ないですが、非共働きの場合、いないと回答した人が他に比べると高いと感じました。気軽な相談先がどこなのかというと、保育士や幼稚園教諭となると、非共働きの場合、保育所などに通うことができず、ご自身で子育てを行う場合もあるかと思いますが、その場合に、預けている先がある人は、預け先の先生に相談することができますが、自分だけで子育てをされている家庭の人に相談先がないのではないかと思います。そう思うと、後半の方に出てくる市で行っているセンターであったり、22 ページに出てくるような気軽に遊びに行けるような場所のスタッフが相談先になるのではと思うと、公園だけではなく、乳幼児親子から行ける施設の充実が必要ではないかと思います。また、乳幼児親子で気になったのは、就学前

児童のコメントですが、私も児童館で働いていて思うのが、0～2歳の子育てをされている方の過ごす場所は多くあると思いますが、動き始める2～3歳以上の場合、0～2歳の子がころころしているところに遊びに行かせにくいところもあります。兄弟がいると、小学生以上の子が同行できない。上の子どもの小学生と一緒に家庭の中で、小さい子連れていく場所の選択肢に入らないことが課題と思っています。

23ページの就学前児童のコメントの中にも意見が入ってきていると思うと、子育て支援に関する0～1歳の子の施設も必要と思うが、児童館が0～18歳を網羅している施設なので、児童館を建てること、児童クラブを増やすことも大変だと思うが、例えば、都内の方で行っている公民館や集会所など、既存の施設の一室を開放して、そういったところを利用した児童室のようなところが増えていくと、どの年代でも来れるような利用ができるのではないかと、この資料を見て思いました。以上です。

【議長】 ありがとうございます。保育所や幼稚園を利用している人は、そこで相談ができる人がいると考えられるが、夫婦家庭の非共働きの場合、相談先がない割合が高くなっているのではないというご指摘であったと思いますが、その可能性は高いかと思います。そうすると、そういった人をどこにつなげていくか、どのように情報を発信していくかが大事であると思います。その解決策として、児童館あるいは公民館等の空きスペースの活用もよいのではないかとのご意見で、放課後児童クラブも子どもたちがやってくるのは、小学校が終わってからですので、当然空いているわけですので、そういった工夫があってもよいかもしれません。他にいかがでしょうか。

【委員】 1ページで気になったのは、小学生への調査で郵送がいらっしゃるのは、どういった理由でしょうか。

【事務局】 市内の小学校に通っている人が1,170名、県立や私立に通っている人などが18名になっています。

【委員】 私の思い込みで、学校に行けていない子なのかと思いましたので、回収率が低いということは、本当は拾わなければいけないところが、拾えていないのかと心配したところでした。

放課後児童クラブについてですが、現在預かっている最終時間帯は、何時なのか。保育園では19時まで預かっているお子さんもいらっしゃって、小学校になって、18時30分までしか預けられないためどうしようと、以前心配の声があったのですが、今現在はどのようなのでしょうか。

【事務局】 延長保育を申し込んでいる方について、以前は18時30分でしたが、今19時になりました。

【委員】 10ページの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況と今後の利用希望となったときに、幼稚園と幼稚園の預かり保育の伸びが大きいのを思ひまして、私も保育所に努めていますが、頑張っていかなければならないと思いました。

幼稚園の方がニーズが高いことを今回のアンケートを見て思いましたので、この辺のことを今後考えていかなければならないと感じました。

23ページの自由意見の中で、公園について書いてありました。うちの方は山の上に

あるものですから、遊び場がなくなってきていて、最近、浜の方に遊歩道の大きな公園ができていますので、利用させてもらっていますが、昔あった小さい公園がなくなっていると思います。例えば、塩竈神社の下の七曲公園などは、遊具が古く行けなかったり、山の途中にちょっとした公園がありましたが、ここもなくなったり、以前は集会所に滑り台があって遊べたところが、コンクリートになっており、遊具がなくなっており、限られたところしか行けず、遊具がある公園が整備されると嬉しいと感じました。

【事務局】 ありがとうございます。幼稚園の方が利用希望が高いということで、認可保育所も42.6%から47.8%に上がっていますが、という辺りですね。あとは公園の整備は、ご指摘の通りだと思います。他にいかがでしょうか。

【委員】 全体的に数値を見て、毎年変化していくものと思いました。9ページで、利用したいが保育・教育事業に空きがないから、というところも、令和6年度に保育園ができることで、この数値は今後少なくなっていくのではないかと考えています。

わだつみ保育園では、一時預かりを行っています。14ページのところですが、一時預かりというのは、お母さんたちが在園、どこの園にも属しておらず、リフレッシュで美容室に行きたい、親の介護、病院に行きたいというときに、お子さんを一時的に預けることができますが、利用する際には事前に登録が必要になります。急に保育園に明日お願いしますということは、まずできないので、事前に登録をして、お子さんの状況を聞きながら、お母さんがこういった状況で利用したいのかを聞きながらやります。ここに4.2%となっていますが、恐らく単発で利用する人がいらっしやったり、週に3回、4回利用される人がいらっしやったりと様々ですが、一時預かりを利用させてもらえませんかという毎日毎日断っているのですが、そう考えると本当はもっと高い。よくある隠れ待機のような形で、ここの数値はもっと高いのではないかと個人的には思いました。そういった印象を受けています。これから、こども誰でも通園制度を国がやりますと言っており、今後段階的に進んでいくようですが、そう考えると、親の就労状況に関わらず、子どもを預けることができるとなっていますので、ここの部分も解消されるのではないかと考えています。お母さんたちが就労していない、という場合も、保育園にはどんどん子どもたちが利用するのではないかと考えていました。

13ページの病児・病後児保育のことで、私も色々調べていますが、ここが84.9%になっており、とても数字が大きくなっていますが、下の方では、お母さん、お父さんが休んだとなっており、病児・病後児保育施設を利用したいという数字がありますが、39.1%となっており、実際にお休みする家庭の中で、子ども休みだから、お母さん、お父さんのいずれかが休んで、子どもを看たいという割合の方が高く、それでも子どもたちを預けたいという人が39.1%と思いました。もちろん病児・病後児保育施設は必要だと思いますが、子どもが具合が悪いから、どちらかが休んで、子どもを看たいと思っている人たちの方が多いのではないかと考えています。

全体的に見て、皆さんからの感想がここに出っていますが、要望に応じて少しずつやっていけば、とても素晴らしい塩竈市の子育て環境になるのではないかと考えています。私もできる限りやっていきたいと思っていますので、ぜひ頑張ってくださいと思います。

【事務局】 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【委員】 先ほどのお話を聞いて思っていたことですが、不定期の教育・保育事業の利用の14ページで言っていただきましたが、私が注目したのは、ファミリー・サポート・センターのところがあまして、仙台市や石巻市では、ファミリー・サポート・センターのほか、ホームスタートが始まったりしていると思いますが、一時預かりをすると保育現場がとても大変になると思いました。それこそ、誰でも通園制度が始まると、現場が大変になりすぎて、子どもたちを一人一人丁寧に見ていただけるのかという不安の方が大きく、現場任せになってしまうと大変そうだというのが第一印象でした。その中でファミリー・サポート・センターが塩竈市にあることを私はあまり認識しておらず、センター自体は知っていますが。市民の人たち同士で預け合いをする制度とっていますが、それであれば、現場任せになりすぎないのではないかと考えており、例えば、3ページの周知の関わりや協力がいずれもない人が12%というのは決して少ない数値ではないと思います。友人や親族に見てもらうことができない家庭がいる中で、一時預かりなど、施設のサービスを頼るしかないという状況の中、ファミリー・サポート・センターという事業をもっと活用できると、うまく分散できるのではないかと考えています。ファミリー・サポート・センターの周知はどのように行っているのかを教えてください。

また、非共働きについて、注目してしまって申し訳ありませんが、いずれもないが一番高く13.6%となっていますが、塩竈市の子育て世帯の中で市内や県内のご親戚がいらっしゃらない、転勤されてきた人などが、どれくらいの割合でいるのか、そういった調査は行っているのかが気になります。

【議長】 ありがとうございます。具体的な質問がありましたが、答えられる範囲でお願いいたします。

【事務局】 ファミリー・サポート・センター事業の周知方法ですが、預けられる人と預けたい人と両方会員ということで、お子さんがいらっしゃる人が他のお子さんを預かるという人がいらっしゃいますが、ちょうど今の3月が切り替えの時期ですが、春先を中心にホームページやSNS、広報で周知を行っています。最後に案内をさせていただく予定でしたが、この4月から子育てアプリの「にこるん」というものができますので、そういったところで、お母さまたちが直接電話よりも、アプリの方が、そういった時代となっていると感じますので、有効に活用をして周知をしていきたいと思っています。

市内・県内の親戚がいない人の調査については、具体的にはできていませんが、今やはり海上保安部であったり、全国転勤をされるお母さまたちが一定数いらっしゃるということで、子育て支援センターのこころんで、必ず一回は訪れて、居場所として選択していただければということで、新生児の方にお配りしているギフト券の贈呈式をこころんで行っており、その中でこころんが居場所になっていけばよいと思っています。

【委員】 ファミリー・サポート・センター事業の会員がどれくらいいるのか、ということと、0歳の新しく生まれたお子さんの場合は、そういった支援がありますが、転勤の場合は、途中からお子さんを連れて引っ越しをされると、市としてアクションを起こす部分がないのではないかとすると、引っ越しの際に、市の窓口に行くと思うので、その際にこういったアクションを起こされているのかが知りたいです。

【事務局】 ファミリー・サポート・センター事業の会員の人数は、今手元に資料がないため、会議中に調べて、回答をしたいと思います。市内の転入された方に対してということで、まだ間に合っておりませんが、子育てガイドを作成しており、その中で、様々な子育て支援サービスについて、全てのものを見ていただくというガイドを編集しているところでしたので、そういった形で対応を行っております。

【議 長】 ありがとうございます。この数字から細かい部分を引っ張り出して、現状を議論しても、もちろん感想は具体的でよいと思いますが、この場で答えられることと、答えられないことがあると思います。具体的にどうやっていくのかを考えているのは、次の段階でよいのではないかと思います。本日は素朴な思ったこと中心に言っていただき、どう着地していくか、そういったご意見がいただけると、それぞれ現場を預かっていると思いますので、それぞれの立場から思い浮かぶことがあると思います。

今回は概要版ということで、今後どう公開版なり、まとめていくかをご意見賜れると嬉しく思います。本日はなくてもよいと思います。後でゆっくり読んでいただき、ご意見をいただければと。令和6年3月に一旦出すのでしょうか。

【事務局】 予定としては、今年度中に概要版の納品を予定しております。概要版の他に報告書の本編がございまして、こちらは4月から5月の早い時期に納品する予定となっております。

【議 長】 そうすると、委員から具体的なよいご意見をいただきましたが、それを踏まえて、次の段階になるかと思います。出てきて終わりではもったいないので、せっかく数値の後押しもありますので。他にご意見はありますでしょうか。もし後でご意見がありましたら、いつまでに寄せればよろしいでしょうか。

【事務局】 本日はご意見を頂戴したほかにもご意見を頂戴できる機会があれば思いまして、机上へ用紙を置かせていただいております。今月中に大変恐縮ではございますが、後ほど気づいたことについては、FAXで送付いただければと。また、メールも送付しますので、そちらでご意見頂戴できればと思います。

【議 長】 電話でも大丈夫でしょうか。

【事務局】 電話でも大丈夫です。

【議 長】 文量が多くなりますので、そういった形でいかがでしょうか。本日、貴重なご意見をお伺いしましたので、その方でキャッチして、進めていただければと思います。本日は協議事項もございまして、次に進めさせていただきます。①特定教育・保育施設等の利用定員について、事務局より説明をお願いいたします。

(2) 協議事項

～～①特定教育・保育施設等の利用定員について、事務局より説明～～

【議 長】 ありがとうございます。ご質問等がありましたら、よろしくお願いいたします。私の方からサポート的に申し上げますと、認可定員は物理的な建物等での最大定員として県が認可するものだと、認可定員が 60 人で、利用定員が 30 人で、あれっと思いますが、それは要するに物理的な収容定員の最大ということで、県が認めたというものです。利用定員はそれとは別に、利用実態を含めて決めるもので、120%以上にならないこととなっており、今見る限りは 120%以上にはなっていないようです。かつ、一度決めたからといって、ずっと固定ということではなく、恐らく認可定員の枠の中で、利用実態に基づいて、上がったリ、下がったリというのは柔軟に対応できるものと、私は捉えましたが、よろしいでしょうか。

【事務局】 その通りでございます。

【議 長】 もっといけるのではないかと思ったかと思いますが、そうではないということです。今後のニーズや今の待機の状況を念頭に入れながら、柔軟に進めていくものと理解しました。ご意見いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、承認いただいたということで、終了したいと思います。ありがとうございます。

また次年度から保育園ができたり、民営化したりとなりますので、会長からのリクエストとして、ぜひ見学会など、皆さん日中お仕事かと思いますが、子どもたちは昼間にいますので、こういった保育園の雰囲気なのかを知りたい場合は、日中に設定をして、箱モノとしてどうなのか、地理的なことを含めてということであれば、この時間でもよいと思います。目的によって、時間帯が違ってよいと思いますので、全員がそろうことは難しいと思いますし、急に 4 月、5 月に実施するのは難しいと思いますので、少し落ちつた頃に、個人でもよいということであれば行きますが、私からのリクエストでした。

円滑な議事進行にご協力いただき、ありがとうございます。事務局へお返しいたします。

【事務局】 ありがとうございます。ここからは事務局が進行いたします。次第 4. 事務連絡等として、事務局から、しおがま子育てアプリ「にこるん」について、ご報告いたします。

4. 事務連絡等

～～①しおがま子育てアプリ「にこるん」について、事務局より説明～～

【事務局】 ご質問等ないので、最後に福祉子ども未来部長より閉会のご挨拶を申し上げます。

～～閉会の挨拶～～

【事務局】 以上をもちまして、令和 5 年度第 4 回塩竈市子ども・子育て会議を閉会させていただきます。本日はありがとうございました。